

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成23年2月17日(2011.2.17)

【公開番号】特開2010-110597(P2010-110597A)

【公開日】平成22年5月20日(2010.5.20)

【年通号数】公開・登録公報2010-020

【出願番号】特願2008-309109(P2008-309109)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/16 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/16

【手続補正書】

【提出日】平成22年12月20日(2010.12.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

シャフト、及び、該シャフトから同軸で延設されたグリップを備える柄と、  
前記シャフトの先端に、前記柄に対して屈曲して設けられた刃部と、  
前記グリップの前記シャフト側の端部から分岐し、前記柄に対して前記刃部が屈曲して  
いる方向とは反対の方向に延設された、ハンマーで打つための被叩打部と  
を具備することを特徴とする手術用骨切りノミ。

【請求項 2】

前記グリップは、前記シャフトより太く形成されている  
ことを特徴とする請求項 1 に記載の手術用骨切りノミ。

【請求項 3】

前記被叩打部の端部の叩打点は、前記刃部の軸を、前記柄に対して前記刃部が屈曲して  
いる方向とは反対の方向に延長した線上に位置する  
ことを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載の手術用骨切りノミ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】手術用骨切りノミ

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 1】

参考例を図 4 に基づいて説明する。図 4 に図示するように、主要構造は刃部 14 と、把持するための柄 15 と、ハンマーを打つための被叩打部 16 で構成され、刃部 14 は柄 15 に対して屈曲している。柄 15 には手で把持するために太くなった部分であるグリップ

１７と刃部１４に連続するシャフト１８から構成される。被叩打部１６は柄１５の端にて屈曲して連続し、刃部１４の先端を中心点とする弧を描いた形状となっていて、刃の方向の反対の延長線上を通過するような長さがある硬性構造物である。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１３

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１３】

本発明の実施形態を図５に基づいて説明する。主要構造は刃部１９と、把持するための柄２０と、ハンマーを打つための被叩打部２１で構成され、刃部１９は柄２０に対して屈曲している。柄２０には手で把持するために太くなった部分であるグリップ２２と刃部１９に連続するシャフト２３から構成される。被叩打部２１は、柄２０のグリップ２２の下端より分枝して、刃部１９の屈曲方向とは反対に延設されている硬性構造物で、刃の方向とは反対の方向の延長線上付近に叩打点２４が付属する。

【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１４

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１４】

【図１】正常腰部脊柱管の軸断面図である。

【図２】腰部脊柱管狭窄症の脊柱管の軸断面図である。

【図３】従来の屈曲ノミの側面図である。

【図４】参考例の側面図である。

【図５】本発明の実施形態の側面図である。

【手続補正６】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１５

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１５】

- ７ 従来の展開側の外側骨切り線
- ８ 理想的な展開側の外側骨切線
- ９ 従来の骨切り刃の柄
- １０ 従来の骨切り刃の叩打するポイント
- １１ 従来の骨切り刃の刃
- １２ 従来の骨切り刃の刃の方向の反対の延長線上
- １３ 従来の骨切り刃の刃先と叩打するポイントを結んだ線上
- １４ 参考例の刃部
- １５ 参考例の柄
- １６ 参考例の被叩打部
- １７ 参考例のグリップ
- １８ 参考例のシャフト
- １９ 実施形態の刃部
- ２０ 実施形態の柄
- ２１ 実施形態の被叩打部
- ２２ 実施形態のグリップ

- 2 3 実施形態のシャフト
- 2 4 実施形態の叩打点